

愛媛県医師会長による記者会見の要旨について

}	日時	R4. 1. 25 (火)
		18 : 00~18 : 45
	場所	愛媛県医師会館

※ (左) 愛媛県医師会 村上博 会長

(右) 愛媛県保健福祉部健康衛生局 河野英明 局長 (オブザーバー)

(司会)

では、よろしいでしょうか。それでは、ただいまから村上博愛媛県医師会長の会見を始めたいと思います。なお、本日はオブザーバーといたしまして、愛媛県保健福祉部の河野英明健康衛生局長にご同席をいただいております。よろしくお願いいたします。

それでは、村上会長、よろしくお願いいたします。

(愛媛県医師会・村上会長)

みなさんこんばんは。愛媛県医師会の村上博です。記者会見を開かせていただきます。集まっていたいてどうもありがとうございます。

私が持っている数字というのは、県庁の知事会見のパネル、それからプレスリリースだけでして、それ以上の数字はありません。皆さん方に隠しているようなものも全然ない状態です。ただ、あちこちの医療機関から聞こえてくる生の声が、少し加味されているというふうに思っただけだとありがたいです。起こっている事実の一つしかないわけですが、それをこっち側から見ると、こっち側から見るとでは、また少し見解が異なってくるというふうに思いますので、それを医療の現場の方から、ちょっと意見を述べさせていただこうと思いました。

今回のオミクロン株、第6波は、想定をはるかに上回る強い感染力で、今まで感染の中心でした若い世代から、若い世代の方が感染したままご家庭に帰られると、大体、家族全員感染ということになってしまいます。それから職場へ広がり、次は高齢者など、かなり幅広い世代に、年代に広がってきておって、特に私が一番懸念しているのは、ここ数日の高齢者施設でのクラスターが複数発生していることでもあります。ここに非常に強い危機感を持っています。

それから、現在のオミクロン株陽性者のほとんどは、軽症ないし無症状というふうに言われていますけれども、高齢者や基礎疾患がある方の重症化率については、未だ知見は明らかではないですけれども、おそらく若い世代の方たちに比べると、中等症、重症化率など懸念材料が多いと思います。昨日の会見のパネルでありました高齢者の入院者

の割合が高まっていることが大きな懸念材料になります。重症化リスクの高い高齢者の感染の増加は、結局、入院患者や重症者の急増につながってしまいます。医療への負荷が高まり、それは結局、一般診療の制限など、第4波、第5波で経験しました医療逼迫（ひっばく）にもつながっていく可能性があります。そうなりますと、全ての世代の方への医療提供に影響を及ぼす懸念が生まれるということになってしまいます。

現在のところは、陽性者の症状は軽いこともあって、大半が自宅療養可能な状況であります。しかし、オミクロン株の感染力が非常に強いために、自宅療養者が急増しているというのが現状であります。今回の感染拡大は、第4波、第5波に比べて、かつて経験のない異次元の領域でありまして、保健所は感染者の急激な増加のために陽性患者のフォローを最優先しなければいけません。全てのことに全部100点満点に対応するのは段々困難になってきて、優先順位をつけなければいけないという業務が出てきます。やはり陽性者の生命を守ることが第一義ですので、その他のことは医師会で引き受けていかなければいけないというふうに考えています。

医師会では逼迫する保健所の業務を少しでも支援するために、オンライン診療等による健康観察業務に加えて、一部では、クラスターが発生した高齢者施設への往診、濃厚接触者の検査、診療など、医師会として総力を挙げてコロナ医療を全面的に支えているつもりであります。

これまでの第1波から第5波の感染の波の中でも、多くの厳しい局面がありましたけれども、その都度、「チーム愛媛」と言ったらちょっと言い過ぎかもしれませんが、一丸となって感染の波を乗り越えてきました。今回も我々は医療が必要な患者さんには適切に医療を提供する所存です。

しかし、ここで感染の連鎖を断ち切らないと、やがては地域医療の維持が困難になってくる、地域医療への影響が生じてくると懸念しています。例えば、発熱外来や抗原検査を行う診療・検査医療機関も感染拡大に伴って、負担が増えています。これ以上の負荷は、通常のかかりつけ患者さんの診療にも影響が出てまいります。

コロナウイルスは身近に迫っているというふうに、まさに自分事として捉えていただきたい。家族や地域を守るために一人一人が基本的な感染対策を徹底し、感染しないこと、感染させないことを意識して行動していただきたいというふうに思います。そして、何とか現在の状況を頭打ちにして減少に転じさせる、そして第6波を収束させていく方向でみんなが努力をしていかなければいけないと思いますし、若い世代の方たちにも理解をいただきたいと思います。

私たちは、高齢者の方へのワクチン接種に全力で取り組みます。若い世代の方はそれまで感染回避行動に気を付けてもらいたいと思います。

基本的な感染対策、それは、3密の回避ですし、換気をすること、これも重要なことです。そして、マスクを外した会食、これは以前は長時間の会食ということでしたが、短時間でも危ないのではないかと考えています。家族で一斉に感染する事例がたくさん

出ていますので、家族でも、家でもマスクをしておく、なかなか難しいことですが、あるいは、それぞれできるだけ自宅で過ごすというようなことが大切かなというふうに思います。

最初考えていたのはここまでなんですけど、道中で少し考えることがありました。

鳥インフルエンザがたくさん出ました。西条の保健所は、もう、てんてこ舞いだっただろうと思います。例えば、県内で感染が拡大している地域と感染がほとんどない地域があれば、感染が少ない地域の保健所のスタッフを拡大地域に派遣することが可能なんですけれども、現在のように県内どこも感染が拡大していると、もうその派遣するスタッフもないわけなんです。彼らは、日付が変わるくらいの時間まで、ほとんど毎日仕事が続いています。休日も何もないということですね。でも、私たちが土日返上でワクチンをやりますので、頑張っていきたいと思います。その鳥インフルなんですけど、ワンヘルスと言いまして、今は、鳥のインフルエンザですけども、やがて突然変異を起こすと、鳥に近い環境で生活している人に感染して、鳥から人への感染ですね。そして、それが人から人への感染に広がると、新型インフルエンザになるわけですが、新型コロナと新型インフルと両方やってくると、これは大変だと思います。ですので、今できることは全部しなければいけないというふうに思っています。

それから、先日、大きな地震がありました。愛南町ではがけ崩れが起こっているわけです。もし、仮に、避難所生活などを応急的に行わなければならないようなことがあった時に、コロナ禍での避難所生活という、これも大きな問題となってくると思います。

これまでかかっても軽いというイメージが大分先行してきました。しかし、それは今までの話であって、感染が高齢世代に広がっていくと、もしかしたら軽いとは言えないかもしれません。ですので、かかっても軽いというイメージが、オミクロンに定着するのは、まだ少し早いのかなという気がします。それから、一番私が心配しているのは、陽性と分かれば10日間隔離をされてしまうわけです。かかっても軽いということであれば、2、3日辛抱すればすむということになってくると、もう検査も受けられない人が出てくるというふうになってしまうことを、実は一番懸念しています。そういう人たちが出てくると、感染の全体像がもう把握できませんし、それから、そのことが感染爆発のきっかけになってしまう可能性もあります。

若い世代の方たちが活発に活動されることは、これはやむを得ないんですけども、年末年始の移動が火をつけた可能性はあるんですけど、その後の感染者の数の増大を見ていると、特に、松山市は人口が多いから仕方がないんですけど、成人式がすんでからあちこちで会食が行われたということですので、それも松山市で感染がなかなか頭打ちにならない原因ではないのかなと考えています。

最後に、PCR検査のキットが不足してきたという噂を聞いています。新聞にも記事が出ていました。もしこれが本当に不足してしまうと、もうちょっとお手あげになってしまいます。厚生労働省は、関連企業にPCR検査キットの増産を要請しているという事務

連絡を発出しているように聞きました。これが、是非、必要なところには、必ず配給されるということを期待したいというふうに思います。

私からは以上です。是非、適切な情報提供をよろしくお願いいたします。

(司会)

ありがとうございました。それでは、質疑を始めたいと思います。ご質問がある方は挙手をお願いします。マイクをお持ちします。

(あいテレビ)

あいテレビです。さっきのお話聞いて、最後にですね、PCRキットの不足について言及されたところがありましたけれども、今、医療現場からですね、今、全国的に不足しているという話はあるんですが、この愛媛の現場からキットが不足しているとか、不自由しているというような声は、会長の耳には入っているのでしょうか。

(愛媛県医師会・村上会長)

入っています。今治のある救急病院で、もう底をついたという連絡が、県医師会の事務局に入ってきました。それから、抗原検査と違って、PCR検査とはまた別の検査の、発注をしたけれども、出荷調整中ということで、注文を受け付けてもらえなかったという声が出てます。

(あいテレビ)

やはり、今後考えられる懸念材料としては、改めてどういったことが影響が出るとお考えでしょうか。

(愛媛県医師会・村上会長)

検査できなければ診断ができませんので、隔離もできないですし、隔離ができなければ感染が広がるということで、ちょっと想像がつかないようなことが、広がりが起こってしまうでしょうね。

(NHK)

NHKです。何点かお伺いしたいのですが、まず、医療現場から今回の第6波について、生の声ということで、逼迫しているとか負荷が増大しているとか、そういった声はどうなんのでしょうか。まずそれをお伺いしたいです。

(愛媛県医師会・村上会長)

現場は逼迫していません、今は。現時点では、感染者のほとんどは軽症、無症状なん

です。ですので、医療現場は、入院医療もまだ余裕がありますし、困ったという声は聞いていませんが、今後、高齢者に感染が拡大してくるはずなのですが、そうなってくると、徐々に徐々に逼迫をしていくということです。それは、第4波、第5波の時はそうだったわけですが、第5波の時は、第4波の時と比べてワクチンの効果があって、死亡する方も少し少なかったですし、高齢者の入院が少なかったんですね。これはワクチンが効いたからだと思うんです。

今回の第6波は、逼迫しているのが入院医療の医療機関ではなくて、自宅療養の管理が逼迫しています。ほぼほぼ限界になっています。保健所は、日に日に陽性者が増えていきますので、そちらの対応で手一杯になってしまうんですが、私たち医師会として、全部は無理ですけれども、可能な範囲で自宅療養者の管理のお手伝いをしていきたいというふうに思って、県内各地でそれぞれ取組みが、もう始まっています。そちらの方の逼迫はあると思います。

(NHK)

その関連にもなるんですが、まだ感染の上限が見えない中なんですけど、これ以上自宅療養者が増えてしまうと、そこに対する負荷というのが大きくなってしまいうんじやないかと想像されるのですが、その辺の懸念はいかがでしょうか。

(愛媛県医師会・村上会長)

そのとおりですね。入院のベッドは、無限にあるわけではなくて、最大で316だったと思うんですが、その316全部は動かせないと思うんです。なぜならば、マンパワーの問題もありますし。ですので、発症した人全員を入院させるというような対応はもう無理で、やっぱり、基本、自宅療養だと思うんですね。管理をしていくのに、キャパシティというのは当然あるわけですが、だからこそ、今日を上限にしてほしいなということをお伝えしたかったんです。行くところまで行くしかないという考え方もあると思うんですよ。366でしたか、367でしたか、今日は。これが500くらいになるかもしれないという見方もあります。見込みもあるんです。だけど、それをやっちゃおしまいだなという気がしていて、今日が本当にマックスと思うつもりで、明日から減らすんだという強い意思を伝えたいんですね。若い人たちに、特に。

(NHK)

最後に、自宅療養者が、フォローが行き届かなかったということが、全国では第5波の時はありました。かなり増えていくと、そういう懸念もあるんじゃないかなと思うんですが、その辺はいかがでしょうか。

(愛媛県医師会・村上会長)

そういうことがあってはいけないだろうと思うんですよ。他県でそういった事例があって、自宅で亡くなられたという事例がたくさんあったというふうに聞いています。愛媛県は幸いにして、ほぼほぼ、皆さんこれまでの第5波の時でもそうですし、第4波の時でもそうなんですけど、入院が必要な人は2日以内には何とか入院に漕ぎつけているというところで、自宅療養中に病状が悪化する場合、何とか対応はできているということと、現在、感染の中心は若い人が多いわけですが、若い人は比較的早く元気になるみたいなんです。なので、危険な状況というのは、今のところは起こっていないということです。入院ベッドは少し空いています。ですので、これから感染が少し高齢世代に移ってきたとして、移ってきても、少し悪化の傾向があれば、その方たちはすぐに入院をさせるということで、準備の病床を増やしてきましたので、何とか対応できるのではないかと考えています。

(愛媛新聞)

愛媛新聞です。感染が拡大して濃厚接触者に認定される方や、学校や保育所の休園などで仕事に行けないというような医療従事者の方も増えてくるかと思うんですが、その辺り、医療現場の方に何か影響が出ていたりということはあるんでしょうか。

(愛媛県医師会・村上会長)

今、愛媛県内では、現在、医療機関においてはですね、そういった問題は発生はしていません。ただ、1件だけ、病院名は挙げられませんが、10名ほど出るところがあって、そこがこのままうまく収束してくれればいいけれども、拡大するようだと、ちょっと一部診療を縮小せざるを得ないところがあるかもしれません。ただ、医療機関では、今のところあまり耳にはしていません。

心配なのは、介護施設の方です。大きな法人でいくつも施設を持っている場合はヘルパーさんや看護師さんが仮に少し抜けても、よそから補充ができるんですが、小さな法人ですと補充ができません。現にそういうところがちょっとあるように耳にしました。そうすると入所者の方たちにご負担がかかるというか、十分な介護が提供されないということが起こってくるというのは、どうもあるらしいんです。ただそれ以上僕は知りません。

あと、保育園が大変だという話もちょっと聞いてまして、これは、保育園で子どもさんが感染していたり、保育士さんが感染すると、保育園も少し休園しなければいけないことになります。そうすると、お母さん、仕事に行けなくなってしまいますし、すごい問題が大きいですね。まあやっぱりそのところですね、何度も言いましたけれども、感染を止めるんだという強い意志を皆さんが持つということに尽きるんじゃないのかなと思うんです。

(愛媛新聞)

先ほどの抗原検査のキットなどの話なんですけど、不足しているという状況に対しては、医師会としては何か具体的に取りうる策というのはない状態でしょうか。

(愛媛県医師会・村上会長)

私たちがキットを持っていればすぐ配布したいですが、なかなかそれもストックもないですし、上位団体である日本医師会というところに、現状を伝えて、日本医師会から、厚生労働省に伝えて、そういう事務連絡を関係団体に出して下さっているようです。総量が決まっているのであれば、あとはどう公正に分配するかだと思うんですが、必要などころに行くように、例えば、心配だからたくさん買っておくとかというところが出ないようにですね、できたらいいなと思うんですが。どうしても診断の決め手が、抗原検査やPCR検査だけですから、きちっと診断をして管理していこうと思うと、キットがたくさん必要なんです。それで、松山や新居浜で無料PCRセンターをしてもらいましたけれども、すごくあれで全体像が把握できてよかったわけですが、やっぱりたくさんキットが必要なんです。必要などころには、きっちり届けてほしいというふうに、一度でダメなら二度、二度でダメなら三度というふうに伝えるしかないんですけど。

(愛媛新聞)

自宅療養者の健康観察を担われる医療機関、地域の医療機関なんですけれども、現状では、すでに逼迫をしているということなんでしょうか。

(愛媛県医師会・村上会長)

一人の医師でやっぱり10人持ったらもう限界です。今のところオンライン診療といっても、私たちは電話が中心ですけども、10人電話するってなると1時間くらいかかってしまいますから。多くの先生がそういう状況にあるのかどうかは、ちょっと、私も十分知らないんですけども、例えば、ある先生は電話を何人かかけて、その後、ちょっと施設へも行って、診察をしてきて、それから、自分の診療を始められるというようなことから、ご苦勞をかけてしまっているわけです。私たち医師会員全員がそれに協力しているわけではないんですよ。手挙げ式ですので。できるだけみんなで行っていかうというふうに呼びかけはしていこうと思っています。

(日本経済新聞)

日本経済新聞です。過去の5波の波においては、その時々、言ってしまうとホットスポットに当たるような、最初の方で言えば夜の街と言われた時もありましたし、あるいは飲食店だったり、あるいは高齢者施設や医療機関そのものだったり、言い方が悪いんですけど、感染が攪拌されるような場が生まれてしまって、それが源に、いろんな世代

に広がっていったような流れを経験していますけれども、愛媛に限った話でなくて、全国的にもそうかと思いますが、先生のお話にもあったように、今回やっぱり、非常に特徴的に思うのが、教育現場での感染拡大、感染の広がりというのが、すごく特徴的なように感じるんですよ。幼稚園や小学校などワクチンが対象外だった世代のみならずですね、中学校、高校含めてですね、感染の拡大というのが、6波でいろんな特徴が言われてますけど、一つに指摘されるんじゃないかと感じています。

そういうことを踏まえまして、これから感染拡大を鎮めていく上ですね、そういった特徴を踏まえた教育の対策のポイントとかですね、こういうような行為類型に非常に気を配らないといけないとかですね、その辺、どのようなお考えをお持ちか伺えないかと思ひまして。

(愛媛県医師会・村上会長)

今回、本当にいくつも出ているクラスターの中で、学校クラスターというのが、結構目立つので、気にはなっていました。教育の現場とか保育の現場にいろいろなルール、規制を持ち込むと、却ってそれが、マイナスの影響があることは重々承知しているのですが、本当に感染を止めていこうと思ったら、今、子どもたちは、結構、黙食とかですね、楽しいところを我慢してよく耐えてくれていると思うんですけども、マスクは外せない、全ての学校、幼稚園、保育所を一律に規制してしまうんじゃないかとですね、メリハリをつけて、少しでも感染の拡大の予兆のあるようなところは、部活動は停止するとか、マスクを外す局面をゼロにするとかですね、分散の登校にするとか、いろいろなアイデアを尽くさないといけないと思うんですが、今回、学校現場だけじゃなくてですね、他にも医療機関も出てますし、それから飲食店もありますし、どこでも起こるという状態ですので、学校だけを責めることもできないんですよ。ただ、今のように次々と出てくるようではダメだと思います。何かいい手を考えないといけないと思ひますね。

(愛媛県保健福祉部健康衛生局・河野局長)

学校が多いという印象が非常にあると思ひます。県庁としては十分な分析はできていないんですけど、全国的な、あるいは世界的な流行を見ますと、そもそものポイントとしては、オミクロン株の感染力の高さがベースにあって、この年末年始の人の移動で、いろんな形でいろんなところから、県内に感染が持ち込まれました。特に、やっぱり、県外、東京、大阪あたりから移動して来られた方、あるいは県外に行かれた方がいろんな幅広い年齢層ですよ、学生さん、若者だけではなくて、いろんな形が、家族で移動されたりとか、いろんなところで持ち込まれたのが、広がっていった結果、やはり、集団生活をする、接触の多い施設、幼稚園とか、学校とか、高齢者施設とかに広がったと。今、非常に思っているのは、感染の力が強いというのが、今まで学校で普通の生活です

よね、授業でマスクをする、給食で黙食をする、ではうつらなかったのが、今までと同じような生活をしていてもうつるケースがあるのではないかということで、もっと厳しい感染予防対策をしなければいけない。あるいは、学校とか幼稚園ですら、運動場とか外で遊ぶ場合は、多少マスクを外していても大丈夫だった、今までのデルタ株やアルファ株だったんですけど、オミクロンの場合はそういう場面でうつっているというようなことが言えるのではないかなと思います。今、村上会長が言われたように、今まで以上に注意をしていかないと、なかなか予防ができないのではないかなというふうに感じています。

(南海放送)

南海放送です。2点ありまして、先ほど家族全員が大半感染してしまうということで、ご自宅での過ごし方の注意点をいくつか会長の方からお示しいただいたと思うんですけども、その辺りについて、もう少し詳しくお願いできればというのが1点目です。

(愛媛県医師会・村上会長)

家族が、無症状の感染者が家に帰って、感染に気付きますよね。感染と診断された。もうその時点で他の家族の方にうつっています。ほぼ全員感染するという状態。これを止めるには、大変困難な課題だと思うんですが、家へ帰ってもマスクは外さないとか、タオルは共有しないとか、基本的なこと、それから自室で過ごせる時間は、できるだけ自室で過ごして。このコロナウイルスというのは人から人に感染するわけですから、接触すれば感染します。なので、感染の機会を減らせばいいということになりますね。

でも難しいと思うんです。ちょっとイメージできないですね。家へ帰って、マスクをみんながしていて、家族がバラバラで、会話もないとかというと、本当にいいのかなという気持ちはあります。

(南海放送)

あと、もう1点はですね、先ほどPCR検査キットが今治の救急病院の一部で底をついているというお話もあるということで、こういった場合、お医者さんとしては、検査はできないとなってる、ただ、救急で運ばれてきているとなった場合、どういう措置を取られるのでしょうか。

(愛媛県医師会・村上会長)

推測ですが、一生懸命頼んで他からちょっと借りるとかしてでも、何とか対応しているんだと思うんです。確認はしてませんが。それから、もし、本当にどうしてもないということになれば、他の医療機関に紹介するというか、お願いするということになると思います。

(愛媛県保健福祉部健康衛生局・河野局長)

一部の医療機関でPCR検査の試薬、それから抗原定性検査のキットが不足しているという声は上がっています。ただ、PCR検査の試薬で言えば、機種によって試薬が足りない機種とまだ大丈夫という機種がありまして、今治の事例はたまたま同じような機種で同じ試薬が不足している機種だったということで、非常にお困りということは聞いておりまして、対応としては、PCR検査の代わりに抗原キットでやっていただく、あるいは急ぎ試薬が手に入りやすい機械に入れ替えるというようなこともご検討いただいているというふうに聞いております。

あと、キット全体なんですけど、キットもいろんな種類がありまして、あと卸のルートというのがありまして、その中で一部入りにくいキットあるいは医療機関があるようですけれども、一応、県内の卸会社に確認をしたところ、今のところ、基本的には注文した量を届けられる流通状態になっている。ただ、今後のところはよく分からない。国の方は、メーカーの方に増産を指示していて、増産体制に入っているということまでは聞いています。ただ、それがいつ頃、本当に潤沢な量が流通してきてということについては、ちょっとまだ目途は聞かれていないという状況なので、一部の医療機関で、卸にご注文されても、ちょっと十分量、6割ぐらいしかお届けできませんよ、というところがあるとは聞いていますが、県全体として、今現在は逼迫している状態ではないというように、県庁では聞いております。

(テレビ愛媛)

テレビ愛媛です。明後日からは18道府県の方でまん延防止の方の適用が始まります。県内をめぐっては、知事の方が県内の情勢などを鑑みて、見解などを述べられています。医師会としてはまん延防止等重点措置、地域、県内の状況を鑑みると、どのようなお考えをお持ちでしょうか。

(愛媛県医師会・村上会長)

どうなのでしょう。皆さんに私からお伺いしたいぐらいなんですけど、まん延防止じゃなくてですね、もう愛媛県も、東京や大阪と同じようにまん延してるんじゃないかなという気がします。まん延の定義を僕は良く知らないのですが、勉強不足で申し訳ないですけど、何となく感覚としてもまん延している、誰がかかってもおかしくないし、どこでかかってもおかしくないような、そういうリスクの中で生活しているというふうに感じます。

知事さんがおっしゃっているのは、私よく理解できていて、今、愛媛県下でクラスターが出ているところを見ると、高齢者施設とか、学校とか、会社、職場だとか、あるいは家庭とかですね、様々なところで出てますので、飲食店だけを対象にした、しかも時

短だけというのでは、効果がほとんどないです。ですので、ここは県庁がどのように考えているか、ちょっと知りませんが、強い制限がいるのではないんだろうかなと思います。緊急事態宣言という言葉が適切かどうかは、とても自信がなくて、僕が決めることじゃないし、何とも言えないんですが、思い切った施策をある期間集中して皆が取り組むと、止められるんじゃないかなというふうな気がします。

(司会)

予定の時間を超えているんですが、最後にお一人いらっしゃいましたら。よろしいでしょうか。では、これで会見を終わりたいと思います。ご苦労様でした。